

令和８年度 第１回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

【会議概要】

- ・ 日 時：令和８年６月３０日（火）１０：００～１１：３０
- ・ 場 所：和泉市役所本館 ３階 ３Ａ・３Ｂ会議室
- ・ 欠席者：なし

【次第】

- １．あいさつ
- ２．委員紹介
- ３．議案
 - １）和泉市地域公共交通計画事業の進捗状況について
 - ２）和泉市地域間幹線系統確保維持計画の策定について
 - ３）モビリティハブの実施について
- ４．報告事項
 - １）「チョイソコいずみ」利用者アンケート結果について
- ５．その他

【議事概要】

１．あいさつ

森吉委員長：本日はお忙しい中、ご出席いただき、また本市の公共交通行政をはじめ、市政各般にわたりご協力いただき感謝申し上げます。ご存知のとおり、燃料費の高騰をはじめとする昨今の物価高騰に加えて、人件費、修繕費など、あらゆる運送コストが上昇の一途を辿っており、加えて、深刻な運転手不足は、路線の維持そのものを困難にする事態であり、住民の移動手段の確保に大きな影響を与えている。このような状況下において、地域公共交通の維持・確保は、もはや単なる移動手段の確保に留まらず、地域経済や住民生活の質、また、地域の持続可能性そのものに直結する、極めて重要な課題であると考えている。本市においては、南部地域へのデマンド型交通システムの導入に続き、本年２月からＪＲ阪和線西側において、交通不便地域の解消として、デマンド型交通システムによる実証運行に取り組み、地域の移動ニーズにあった効率的で持続可能な交通手段の検討を行っているところだ。本日は、地域公共交通計画の進捗状況の確認や地域間幹線の確保維持に関することに加え、新たな取り組みであるモビリティハブの実施に関することが議案となっている。市民の持続可能な交通手段を確保する上でより一層、関係機関との連携・協力が必要と考えており、委員皆様のお力添えをお願い申し上げ

げる。委員皆様におかれては、地域公共交通の活性化とともに、地域の移動手段の確保策に向けて、多様な観点からご意見を頂き、ご審議いただきたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

1) 和泉市地域公共交通計画事業の進捗状況について

(事務局より資料 1-1、1-2 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

伊勢副委員長：資料 1-1。裏面の【基本方針 3：④高齢者及び障がい者に対する外出支援の実施】で【高齢者お出かけ支援事業の実施】欄、今後の予定で事業展開が完了となっており、令和 8 年度から、【お出かけ支援チケットの配布を終了し、自身の介護予防活動等にインセンティブを付与する電子ポイント事業へ移行】、備考欄に【公共交通の効果判断基準に課題あり】とあるが、実施の有無が○になっている。他と違って事業展開が完了などいろいろ変わっているの、この辺をもう少し説明してほしい。特に、電子ポイント事業への移行というものが、このポイントが外出支援に全て使用できるのか。あるいは、外出支援以外にも使えるのであれば、この事業が外出支援に繋がったかどうかを見ていかないと目標を達成する事業として、適切性が有るかどうか気になるので、備考も含めて説明願う。

田口委員：令和 8 年度から、お出かけ支援チケットを電子ポイント事業に移行するということで、この電子ポイントに関しては 65 歳以上の高齢者の方を対象に、介護予防教室や、ウォーキングの取り組みを通じて、自身の活動に伴うポイントを付与していく。インセンティブとして、この溜まったポイントを電子マネーに置き換えていく。電子マネーも店舗などの買い物に利用できるような仕組みを考えている。また、公共交通機関で利用できるかどうか。ポイントをマネーに交換する基盤システムの事業者を現在、選定しているので、選定される事業者によって公共交通機関で、利用できるかどうかは、まだ見通しが立っていない状況なので、このような書き方をした。

伊勢副委員長：備考はどう考えたらいいか。

田口委員：現在、選定している非接触型のカードを交通機関で利用できれば、利用実績等をデータとして把握して、利用促進に繋がるという効果判定ができるかと考えているが、まず、バスや電車で利用が出来ないようなカードになった場合は、効果判定が難しいことから効果判定基準の課題として記載している。

伊勢副委員長：来年度のフォローアップや今後の予定については、完了しているものなので、記載の仕方は変わるのか。それとも、項目自体なくなるのか。

事務局：今説明があったように、当初は、おでかけ支援チケットで、こちらの計画に記載していたが、令和8年度より電子ポイントに移行していくということで、担当課と協議しながら、記載の仕方を変えていくのかどうかを含めて検討したい。

伊勢副委員長：国の方に伺う。5年間の計画の中で、状況によって中身が変わる分には特に問題はないと考えていいか。

中野委員：はい。途中で見直す分には構わない。外部的な状況の変化などもあるかと思うので、状況に応じて変更することは可能である。

中野委員：資料1-2において、令和10年度の目標値を上回るような形に見えるが、もともと作成されたタイミングが令和3・4年度のコロナの時期を基準にして増加しているが、そこをどう評価するのか。令和10年度の目標値についてはこのまま据え置くのか。別の評価指標を立てるのか。

事務局：この基準値を定めた時期がコロナ禍の影響を受けていた頃ではあるが、今基準値を別に設けることは考えていない。

伊勢副委員長：資料1-2の市が補助を行うバス路線の収支率と、その下の1人当たりの費用だが、一般の路線バスを除いたところだと思うが、収支率は上がっていて、でも1人当たりの負担率は増えている。路線バスが撤退されて、路線維持バスに変わったことで、民間事業者が撤退される収支率と、いわゆるコミュニティバスの収支率を比較したときに、民間の方が撤退する収支率もやや高いので、受け持った結果、収支率が上がっていることでいいか。またそれを合わせることで、1人当たりの負担額が上がるのか。一般的に収支率が上がるのであれば負担額は下がりそうだが、上がっていたらそういう解釈なのかと思ったのだがどうか。

事務局：まだ、具体的な影響調査はしていないが、令和7年度、路線が廃線し、路線維持バスを拡充したことによって、費用は増えた。ただ、収支率について路線維持バスを拡充することによって利用者についても大幅に増え、日中走っているデマンドについては、令和6年度から令和7年度に比べて130%増えている。負担額の費用は増えたが、収支率も増えていると考えている。

伊勢副委員長：増えたというのは、路線維持バスのルートも増えているのか。

事務局：はい。

伊勢副委員長：わかりました。また差し支えなければ、路線別で見せてもらえると分かりやすいかと思う。

伊勢副委員長：他に意見がないので、議案1の進捗状況については計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

（一同異議なし）

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

2) 和泉市地域間幹線系統確保維持計画の策定について

(事務局より資料 2-1、2-2 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

中野委員：国に提出していただく資料になるので、少しだけ補足する。(申請書の内容について説明)

伊勢副委員長：申請番号 1 の路線については、南海バスが効率的に運行されているにもかかわらず赤字額が大きいことは、それだけ、ここの自治体で特別なサービスを行っているという解釈でいいのか。

中野委員：経費については、路線の距離に運行回数をかけて算出するが、当該路線は他の路線と比べて運行距離が長いことから、その分経費がかかり、赤字が大きくなっている。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、議案 2 の計画の内容について計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

(一同異議なし)

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

3) モビリティハブの実施について

(事務局より資料 3 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

今城委員：町会連合会、地域の代表として、モビリティハブは地域にとっていいことだと思う。市内に広めてほしい。今までの内容を聞いて、幹線道路を通して主要駅の和泉府中駅、和泉中央駅、泉大津駅まで行くような、通勤等に便利な縦のラインと、日中の買い物や病院等に行くための横のラインの結節点として、ハブの駅が決まると乗客が集まるのではないか。少し思惑とは違うかもしれないが、最終的には、鍋谷峠を越えて和歌山まで路線バスを走らせてもらえたら、和歌山から和泉中央駅まで車で通勤している方がバスを利用した分、収益としては上がると思う。いろいろな法律の問題があるがそれが地域として思っているところである。個人的な感覚だが、バスを電車で例えると、快速が路線バス、鈍行がコミバスや路線維持バス、こういう感覚で公共交通の整備を進めてほしい。いろいろと住民の要望に応えた公共交通を考えているとは思いますが、今までバスが走っていたところなくなった。団塊の世代が歳を重ねてから行動範囲が狭まり、また、免許返納することもあり、様々なニーズに対応するためにコミバスなどができたと思うが、基本に返って、このようにしてほしい。

事務局：モビリティハブについては、昨年廃止された路線バスに代わって路線維持バスやデマンドバスで、様々な交通モビリティの結節点がオークワにある。外出促進

を促す為に、バスの乗換えにかかる時間の消費の観点から、オークワでモビリティハブを設置し、実証を行っていく。その中で、シェアサイクル等が、交通の補完機能としての役割を持つかどうか等、実証を行った上で、今後、市内でどう増やしていくか検討していく。先ほど、路線バスを和歌山までと意見があったが、事務局では答えられないので、南海バス等に確認できたらと思う。

伊勢副委員長：交通会議に諮られるということは、もちろんその事業の承認等を本会議で行うことになると思うが、地域公共交通計画事業の中に、関連性が位置付けられるものか。

事務局：計画の中にモビリティハブの表記はないが、その計画の趣旨自体が公共交通の利便性や利用促進向上に対して計画策定を行っているので、計画に沿う形でモビリティハブを設置し、効果を狙う考えである。

伊勢副委員長：何らかの形で位置付けておくのがいいかと思ったので、関連するところに今後の予定等に記載してもいいのではないかな。検討してほしい。

事務局：モビリティハブについては、新たな取り組みとして、実証を行っていくことで、交通計画の中でも関連性がある所で表記できるのであれば検討していく。

伊勢副委員長：今年度の事業評価をするかと思うが、評価指標の検討なども、この会議体で行う解釈でいいか。

事務局：はい。

伊勢副委員長：今回はこのスケジュールで実施することに対しての承認でいいか。

事務局：はい。

伊勢副委員長：例えばこれを進めていく上でこういうところを配慮して欲しいとか事業者側の意見、先ほど住民の方の意見もあったが、国からの指摘等々があればとは思いますが。

今城委員：国からの補助金額、市からの支出額を概算で教えてもらえないだろうか。

伊勢副委員長：概算額について、事務局から答えられることはあるか。

事務局：市で現在運行しているのが、路線維持バス、コミュニティバス、デマンドバスであり、これは特に補助金というわけではなくて、運行経費から運行収入（運賃）を引いた残りを負担金として全体で約1億1,000万から3,000万ぐらいを事業者を支払っている。

伊勢副委員長：はい。ありがとうございます。その他何かご質問、ご意見等はあるか。他にご意見がないので、議案3の資料の内容について計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

（一同異議なし）

この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

4. 報告事項

1)「チョイソコいずみ」利用者アンケート結果について

(事務局より資料4の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

園田委員：チョイソコいずみのアンケートの回答は31件。夫婦で会員登録をしており、先日利用しようとしたら断られた。なかなか利用する機会がないのだが、一体どれぐらいの人が会員になっているのか。

事務局：市外の方も含め、2000人を超える方に登録いただいている。地域では、現在500人を超えている。

園田委員：この500人の中でアンケート回答者は31件しかないのはどういうことか。スマートフォン等で回答していることは理解できたが、果たして高齢者がスムーズにアンケートに答えられるかどうか。アンケートの取り方もこれから検討してほしい。私自身も夫婦でアンケートに答えていないし、地域で会員になっている人も答えていない方がほとんどなので、そのあたりをちょっと改善してほしい。そうすると、もっと違う意見が出てくると思う。

事務局：今回、アンケートを実施するにあたっていろいろ検討し、予約乗車するときに回答できるようにインターネットにリンクを貼り付けて回答する方法をとった。ただ、インターネットのみではなく、乗車した時に回答ができるよう車内にアンケート用紙を設置した。回答数が今回少ない結果となり、今後アンケートを実施する際には検討する。

園田委員：今後検討してほしい点は、町会長・自治会長も2年に一度変更となり、その時に担当していた人は一生懸命頑張ってやっても、どうしても引き継ぎ等の加減がうまくいかない場合もあり、関心度でも変わってくるので、広報活動もきっちりやってもらえるとありがたい。

伊勢副委員長：利用データは、チョイソコの運営事業者さんがお持ちだと思うが、データの解析は前回の委員会で提供していたか。

事務局：導入した時、本委員会で提供している。阪和西エリアについても提供できればと考えている。

伊勢副委員長：データについては、何時からどこで乗って、何時どこで降りたか。その運行の距離など、詳細まで出ていたと思う。あと、気になるのが、アンケートでの回答数はこれだけだと少ないので、信頼性はないが、主な利用時間帯が9時から11時の割に、予約が取りづらい時間帯が15時から16時とあるが、どう考えたらいいか。15時から16時は個別で、行き先がバラバラになるので1人の予約しか取れず、午前中は比較的同じような方向に行くので、乗り合わせているのか等。結局、乗り合いがどれぐらい発生しているのか、そういうのは実態から見えなさそうな気がするが、何となく推測できるようなところもあるかと思うので、時間がある時に見てもらえたら。それで、また出してもらえると、また少し、今後の課題が

変わってくるかと思うので、ぜひお願いしたい。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、報告事項の内容については以上を持ちまして終了とする。

5. その他

なし

6. 閉 会

事 務 局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

